

普及活動情勢報告（平成30年3月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

～継続した活動に向けて～ 逆川広域集落営農組合総代会



3月2日に、広域組織化されて1期目の逆川広域集落営農組合の総代会が開催され、今年度の実績確認や次年度の計画等について協議されました（12名出席）。

その結果、次年度に田植機を整備して作業受託の規模拡大を行うことと、集落で耕作できなくなった農地を組合が受託して、試験的に飼料用米の共同栽培に取り組むこととなりました。

農業改良普及課からは、新たに共同栽培に取り組むため、効率的な管理体制の整備について助言等を行い、試行的に栽培チームを立ち上げることとなりました。

今後は目標達成に向けて継続した活動が行えるように関係者と協力して支援していきます。

メロン部会全体会

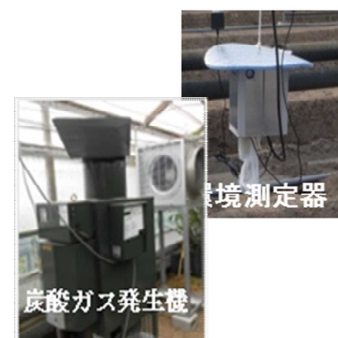


JA土佐香美夜須支所メロン部会全体会が、3月7日に夜須支所で開催され、生産者14名が参加しました。

品種や生育状況に応じた今後の栽培管理について、関係機関や生産者間で意見交換が行われ、規格・選別について確認しました。また「エメラルドメロン」の産地ブランド力向上に向けた取り組みとして、地理的表示（GI）保護制度申請に向けて話し合いが行われ、部会で取り組んでいくこととしました。

農業改良普及課は今後もメロンの安定生産に向けて、栽培管理技術の向上やブランド力の強化に向けた取り組みを支援していきます。

～環境制御技術の導入促進～南国市環境制御技術普及促進事業及び機器説明会



2月19～23日にJA南国市経済事業本部2階会議室で、南国市管内の農家への環境制御技術普及促進事業及び機器説明会を開催し、12名が参加しました。

農家の要望を聞きながら、機器の特徴や説明、増収のための組み合わせ、事業で導入できる機器や補助率、導入までの流れ、大まかな導入コストなどを説明し、農家の疑問に答えながらきめ細かな対応を行いました。参加農家からは、時間をかけて話を聞いたので良かったなどの声が聞かれました。

農業改良普及課は今後も農家の増収に向けて、環境制御技術を普及していきます。

JA 土佐香美ニラ部会グリーンカレッジ設立協議会を開催しました。



H30 園芸年度からニラ部会の下部組織となったグリーンカレッジの設立協議会を 3 月 18 日に開催しました。グリーンカレッジは、おおむね 5 年目までの新規就農者等で構成されており、農業改良普及課の支援により栽培技術等の勉強会を行っています。設立協議会には 8 名のメンバーとグリーンカレッジの活動をサポートする新規就農者等支援チーム員 8 名が参加しました。

役員選出後の意見交換では、今後の活動内容として、新規就農者から「ベテラン農家に自分のほ場を見てもらって、アドバイスがほしい。」等の意見が出ました。また、新規就農者等支援チーム員からは、「目標を持って取り組むこと。ライバルを探すことも大事。」等のアドバイスがありました。

農業改良普及課は、今後もグリーンカレッジの運営を支援し、新規就農者の育成に向けて取り組みます。

現地検討会が再開！



JA 南国市大葉部会は 2 月 27 日、現地検討会を行い、生産者 26 名が参加しました。

難防除害虫の発生等により開催が控えられていた現地検討会が、10 年ぶりに再開されました。今回は、農家が 3 グループに分かれ、グループごとにはほ場を見て回りました。「よく手入れがされている」、「心葉が白っぽくなることがあるが原因は？」など、感想や日頃、疑問に思っていること等、活発な意見交換となりました。研修後には、各グループの代表から、他農家のほ場を見ることで新たな発見や栽培方法の違いを知ることができ有意義な会であった感想が報告されました。

農業改良普及課からは、現地で生育の傾向などの情報提供するとともに、部会の今後を考えるうえで必要な農家の生産意向調査を併せて行いました。

今後も生産及び品質向上のための部会活動を支援します。

青年農業士中央東ブロック協議会の平成 29 年度総会が開催されました



平成 30 年 3 月 15 日、「グレース浜すし(南国市)」にて総会及び研修会が開催されました。総会には、青年農業士 22 名が出席（会員 37 名）し、H29 年度の活動実績及び H30 年度の事業計画について協議を行いました。総会終了後の研修会では、環境農業推進課の担当者から「GAP をめぐる情勢と高知県の GAP への取組について」と題し、2020 オリ・パラに向け、ガイドライン準拠 GAP 実施産地を目指すこと、また、現場で具体的にどのように取り組んでいくのかを分かりやすく講習してもらいました。農業士からは、「まず、自分のほ場を整理、整頓するなど取り組みやすい所から実践してみたい」との感想が聞かれました。

農業改良普及課は、青年農業士の活動とガイドライン準拠 GAP 実施産地に向けた取り組みを、関係機関と連携をしながら、支援していきます。